

日本バイオインフォマティクス学会第14回評議員会 議事録

日時：平成17年12月21日（水）12:00-

場所：パシフィコ横浜会議センター3階315

出席者

江口（会長）、中井（副会長）、青島、秋山、有田、小長谷、五斗、榊原、藤、馬見塚、蓑島、輪湖、渋谷（議事録）、宮野（幹事）

1. Oxford University Press Bioinformatics Prize 選考委員会

当賞は採択時に JSBi 会員であるポスター投稿者から選ばれるもので、宮野幹事より、その選考規定について宮野幹事より説明があり、投票によって賞の選考を行った。その結果、

P063

A Maximum Likelihood Method for Inference of Spliceosomal Intron Evolution,
Hung Dinh Nguyen, Maki Yoshihara, Naoya Kenmochi
が選ばれた。

2. 平成18年度以降のGIWの運営について

宮野幹事より来年度以降のGIWの運営について報告があった。これまで、GIWについては外部よりサポートを頂き、ポスターセッション及びソフトウェア・デモンストレーションに関しては JSBi の年会として活動を行っているが、来年度は、GIW 独自に開催することを検討していることが報告された。さらに再来年度以降には、AASBi の Annual Meeting として GIW を進めて行くことを検討しており、シンガポールでの開催を検討中である。ただし、JSBi も主催あるいは共催、共同開催をすることによって運営に関わっていくことも確認された。また、プロシーディングの出版に関しても JSBi の事業として進めて行く。また出版社に関して、来年度より World Scientific に変更することを検討中であることも報告された。またこれらの変更を検討する際、Medline 登録を今後とも行うこと、JSBi が著作権を持つこと等については変更しないよう検討していくことを確認した。さらに、JSBi 年会に関しても2007年度以降どのように執り行っていくかについて今後議論検討していく。

なお、これらに関して、来年度の大会委員長については宮野幹事に委任することが確認された。

3. 学会倫理指針について

江口会長および蓑島委員より学会の倫理規定の策定に関する指針について報告があり、早急に案を作成し、今後広くコメント等を集めることとなった。

秋山委員、藤委員より、バイオインフォマティクス学会にあった倫理を注意深く策定していく必要性について意見が出された。

4. 地域部会について

今後地域独自の活動を増やすために、東北、中部、関西、九州・四国に関して活動・設立等について今後検討していくことになった。

秋山委員より、地域部会と評議員会は密接にやりとりをする必要性について意見が出された。

5. その他

次回評議員選挙等日程について報告があった。

以上。